

2021年10月20日

各位

三菱UFJ信託銀行株式会社

重大な環境・社会課題の解決に向けたインパクト投資の開始について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 ^{ながしま いわお}長島 巖、以下三菱UFJ信託銀行）は、国内の上場株式を組み入れ対象とするインパクト投資型ファンド（以下、ファンド）を設立するため、日本におけるインパクト投資のパイオニアとして黎明期から中心的な役割を担ってきた一般財団法人 社会変革推進財団（理事長大野 修一、以下「Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)」）の知見を活用し、三菱UFJフィナンシャル・グループとして初めて、2021年10月20日よりファンドの運用を開始することを決定しましたので、お知らせいたします。

三菱UFJ信託銀行は、お客さまからお預かりした大切な資産を長期的且つ安定的に増やしていく運用を行っています。近年、環境・社会課題への意識が急速に高まり、サステナビリティを巡る議論が注目を集める中、経済的リターンと並行して環境・社会課題の解決（インパクトの創出）を目指すインパクト投資の重要性が高まっています。

インパクト投資においては、投資家が運用を通じて解決を目指す具体的な目標（インパクト・ゴール）に向けて投資先の事業活動から創出される製品・サービス（アウトプット）等の付加価値だけでなく、事業活動による環境・社会の変化（アウトカム）を捉え、その効果測定（インパクト測定・マネジメント）を行うことが重要になります。今般、三菱UFJ信託銀行は、専門的知見を有するSIIFと共に、ファンドのインパクト・ゴールと達成への道のり（セオリー・オブ・チェンジ）の策定、アウトプット・アウトカムに至るまでの因果関係の分析、インパクトの測定・マネジメントプロセスの設計に関する世界のベストプラクティスや、国際的な原則・フレームワークにも合うインパクト測定方法を検討してきました。

本ファンドでは、三菱UFJ信託銀行が独自に特定した「重大なESG課題（気候変動、健康と安全、人権・ダイバーシティ、ガバナンス体制、情報開示）」を起点に、これら課題の本質的な原因分析を踏まえ、課題解決に繋がる投資先企業の選定と、エンゲージメントに取り組みます。本ファンドの運用を通じて、幅広いステークホルダーと共に、「安心・豊かな社会」の実現を目指してまいります。

< 一般財団法人 社会変革推進財団（SIIF）について (<https://www.siif.or.jp/>) >

社会変革推進財団は、「社会課題解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指し、自助・公助・共助の枠組みを超えて、社会的・経済的な資源の循環の仕組みをつくる」ことをミッションとしているインパクト投資の推進団体です。企業、自治体、NPO、教育研究機関などと共に、社会的・経済的資源のエコシステムの実現のために、数々の計画立案、その実行や支援などを行なっています。